

## 鞆港の風景を読み解き、伝える —思い出の茶屋蔵にて— Read and Present the Landscape of Tomo —At the Traditional Chayagura—



10月5日(土)、6日(日)、鞆の浦にてプロジェクトの現地発表が行われました。冊子の公開や展示のほか、新たに子ども向けのイベントも開催しました。その様子を M2 柏原が報告します。

### この1年間の成果のお披露目

text\_kashiwabara

- 今回の現地発表では、昨年度後半から行ってきた鞆港の景観調査をまとめた冊子『鞆港の風景を読み解く4つの鍵』のお披露目、そしてその冊子内容を展示し、また子ども向けのイベント「鞆と海の教室」を開催しました。
- 展示場所には、観光エリアの中心にある茶屋蔵をお借りしました。茶屋蔵は、鞆プロジェクトが調査や改修作業に関わった築100年以上の蔵です。立地の良さもあり、2日間で100人以上の方に訪れて頂くことができました。大勢の観光客の外、茶屋蔵に初めて入るといふ鞆の方や、鞆プロジェクト13年の中でお世話になってきた方々に来て頂くこともできました。
- 子ども向けのイベントは、少し難しい展示内容を、子ども達にも分かりやすく伝える事が目的でした。こちら側の人員不足から決めた「教室」形式の発表が、子どもにとって魅力に欠けるプログラムにならないか...と心配でしたが、元気な鞆の子ども達だけでなく展示を見に訪れた大人の方々も参加して下さい、充実した時間となりました。



▲茶屋蔵パネルと風景写真のスライドも展示



▲展示会場となった茶屋蔵の位置



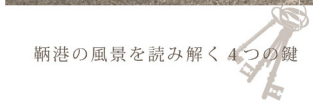
鞆港の風景を読み解く4つの鍵



▲茶屋蔵の前にはすぐ海が広がる



▲鞆メンバー集合写真



▲完成した冊子の表紙

### 様々な試行錯誤を経ての発表

建築学専攻 修士2年 宮田 剛

友人から鞆PJに誘われた時は、ちょうど架橋問題が収束を迎えつつある頃でした。ところが火種はまだ燃っており、ヒアリングを実施しても拒絶されてしまうこともあり。住民が分断されてしまった鞆の現状を把握し、このPJのやり辛さを感じてしまった事は事実です。しかし、訪鞆を繰り返すごとに、完全な観光地化が成されなかった鞆の魅力を多くの人に伝えたいという気持ちが溢れ、やり「辛さ」もやり「甲斐」に変わっていきました。冊子を作成している間は、どのような言葉を使えばその魅力を伝えることができるのか、何度も書き直し、結局上手く表現出来たかどうか分かりません。けれども、PJの最後に行った企画・展示を通して、改めて自分の口から飛び出した言葉には説得力があるように思えました。展示会場に訪れてくださった多くの方々に、鞆の魅力を伝える事が出来たのではないのでしょうか。今後も鞆の魅力を考え、それを発信し続ける事が鞆PJの一つの使命ではないかと思えます。



▲展示内容を説明中

## ワークショップ報告

# 今夏、研究室メンバーが次々と海外へ

## Lab Members Joining Various Workshops This Summer

この夏、研究室メンバーがバンコク、ローマ、ボストンと精力的に様々なワークショップに参加しました。

## Joint International WS on Urban Regeneration 2013 in Bangkok

text\_takanashi

9月20日(金)から30日(月)まで、城所先生、黒瀬先生、都市工学専攻・新領域の社会文化環境学専攻の学生7名でバンコクのチュラロンコン大学でのワークショップに参加してきました。他にもバンコクから三大学、日本から明治大学が参加し、バンコクにおける都市開発についての提案を行いました。

課題はタイのURにあたるNHAが所有している団地の再開発でした。バンコクでは慢性的な交通渋滞が問題ですが、今回の対象敷地は、中心地から直通の新設地下鉄駅に隣接、かつ中心地5km圏内にありました。そのため、TODを推進する上で最適な立地であることを考慮することも条件として課せられました。

始めに対象敷地を訪れた時は、生活景のにじみだし方や賑やか



▲満面の笑顔で迎えた最終日

な通りを目にして再開発の必要性を疑いました。しかしタイの先生方の容積500%でも足りないという意見とその理由を聞いている内に、これほどの可能性を持つ公共の土地に低密度で敷地内に完結気味の現状を維持することは、低所得者の住居を確保する点で不適切であることが理解できました。その上で日本が経験してきたことをどう活かせるかを考えさせられました。

今年は学生からの希望通りにタイ日本の混成チームでワークショップを行ったこともあり、タイの学生にはワークショップ終了後も本当によくしてもらい、存分に楽しめた10日間でした。



▲対象敷地にて、にじみ出ている生活景

## 国際セミナー WS in Rome

text\_douki

9月23日(月)から26日(木)まで、D2 宋とM1 道喜がローマで行われた東京大学都市工学専攻とローマ大学建築学部との国際セミナー・ワークショップに参加しました。前半2日間は両大学教授陣によるイタリアと日本の都市計画についてのレクチャー、後半2日間は学生によるワークショップが行われました。ワークショップではスプロールや既存不適格建築物などの問題を抱えるローマ市郊外ピエトララータ地区を対象地として、レクチャーで議題となった両国の市街地再開発戦略や計画技法がどのように活用できるのかということを中心に討論、提案をしました。今回のワークショップでは慣れない英語での聴講・討論・発表をし、またローマ大学の学生達と朝から夜まで過ごすことでイタリアの都市計画だけでなく文化を肌で感じることができ、非常に貴重な機会となりました。



▲議論する交通研小澤君



▲ローマ大学の前で記念撮影



## MIT WS in Boston

text\_segawa

9月9日(月)から13日(金)まで、M1 瀬川がMITとハーバード大学にて行われた分野横断型グローバル人材育成のための集中ワークショップに参加しました。このワークショップでは工学部の各専攻1名ずつが参加し、それぞれの分野の研究室訪問、現地の学生との交流などを目的として開催されました。私自身はMITのUrban Designの先生を訪ねたり、ハーバードGSDを案内していただいたり、MITの建築スタジオのピンアップを聴講したりと、海外の学生がどのように学んでいるのかを知ることができました。また都市デザイン研究室の学生としてボストンの街を理解することは絶対的の使命だと感じていたため、Newbury StreetからBoston Commonを通過してNorth Endまでの素敵なシークエンスを感じつつ、友人に教えてもらった廃墟ドックを見に行くなど多様にボストンを味わうことができました。



▲建築スタジオの学生の発表



▲MIT Stata Centerの前で集合写真

### 10月の予定

10月2日~14日	建築夜校校展覧会@建築博物館ギャラリー
10月11日~13日	佐原大祭研究現地発表
10月17日・18日	大槌現地調査
10月20日	清水みなと散歩
10月23日	B4卒論中間発表、新入生歓迎会
10月30日 15:00~	第7回研究会会議

## Information

### ★ 編集後記

瀬川 明日奈

10月になりました。暑さもすっかりどこかへ行き、過ごしやすい気候になってきました、と言いたところなんですが、個人的にはまだ暑くて気分的には秋と認められません。ただ私の家の前庭は半年前に植木屋が来たのを最後にまったく手入れをしておらず、ススキがぼうぼうに生えているため、家に帰る度に秋の風情を感じることが出来ます。この秋も栗ごはんとかモンブランとか柿とか食べられたらいいなあと思っています。